

# 燃えろ！炎の東北大英語

## 第1講 まず敵を知るべし！！

2011/08/22

文責： 東北大学 アルカナパラディン若生

東北大英語の対策授業を担当するアルカナパラディン若生と申します。  
どうかよろしくお願いします。  
過去問の解説自体には次回から入るのですが、今回は初回ということで東北大英語の傾向と対策、またそれに応じた勉強法などについて述べていきます。  
東北大の英語の問題は過去10年分以上解いているので、傾向も対策も僕に任せてください。  
今回の話がこれからの指針となります。

### ① 初めに ～受験勉強とは？～

それではまず初めに、受験勉強とはどのようなものかについて。

受験勉強というものは、ただがむしゃらに参考書や問題集に向かえばよいものではありません。

志望校の問題傾向を調べ、それに応じて解く順番や時間配分、その時間内に解き終わらなかったらどうするか、飛ばして次に進むか、などといったことまでをまず考えてから、過去問や日々の学習に取り組むべきなのです。

今から東北大英語の傾向とその対策について述べますが、自分の目で赤本等を見て、自分の頭で色々と考えてみてください。

解く順番や時間配分には個人差が色濃く出ます。

その辺りは過去問一度解いてみてから考えてみるといいです。

## ② 東北大英語の問題構成・対策・勉強法

	形式	メイン	時間配分(100)
大問(1)	長文読解	下線部和訳	25～30
大問(2)	〃	〃	25～30
大問(3)	会話文	空所補充 or 自由英作文	20
大問(4)	和文英訳	—	20

ここ五年間、大問四つの構成となっており、長文読解が二問、会話文が一問、和文英訳が一問、という形をとっています。

### 大問一、二

いわゆる長文読解の形式をとります。

内容は学術的なものが多く、幅広い分野から出題されているので、日頃から様々な文章を読んでおく必要があります。

また、東北大の長文の特徴としては、下線部和訳に比重が置かれている点があげられます。2005年度大問二や2006年度大問一などでは、なんと、傍線部・空欄やその前後を読めば解けるというお得な作りになっています。

近年ではそのようなことはないのですが、出ないとも限りませんので、最初に問題文を読んで何が問われているのかを確認しておきましょう。

下線部和訳や空所補充、前後から読み取れそうな内容説明の問題で構成されていたら、傍線部までは軽く読み流し、時間短縮が見込めます。

時間に余裕がない方は頭に入れておいてください。

勉強法としては、万遍なく問題形式を揃えた難しめ長文読解の問題集をやっていくのと、並行して、構文や単語の細かい用法の復習を続けてください。

下線部和訳で構文が見抜けていないと大幅な減点を受ける恐れがあります。

### 大問三

会話文の形式をとります。

2010年度までの5年間は空所補充がメインとなっていました。2011年度で自由英作文が出題されました。

どちらも会話文から問われるのですが、毛色の全く違った問題なので対策に苦勞するかもしれません。

空所補充は、問題数が少なく、また部分点がもらえない出題形式であるので、少しのミスが命取りになります。

さらにこの問題形式は東北大独特のものなのでなかなか類題もありません。

対策としては、センター試験などの会話文の問題が出たら、細かいイディオムまでチェックして、漏れのないように意識することが大切です。

自由英作文は、難しそうに見えますが然るべき対策をとれば怖いものではありません。

基本的な対策としては、これから話す大問四の対策と同じようなものです。

ですが、形式としては作文であることから、ある程度の構想を練っておいた方がスラスラ書けるようになるので、構想を考えておきましょう。

例としては、

《板書②》<主張→その主張に対する理由→具体例>

などといった段落の構成を考えておくとよいでしょう。

自由英作文の問題は山形大、秋田大などでよく出るので、その問題をあげておきますから、取り組んでみてください。

また、英作文を書いたら必ず添削指導を受けましょう。

## 大問四

和文英訳の形式をとります。

言うまでもなく、提示された日本語の文を英訳する問題です。

いきなりできるなんてことはもちろんないので、地道に例文を暗唱し、地を作っていきます。

問われる文も、大元の構文が当たっていれば、ある程度の得点はもらえます。

出題者が何をもとめているかを考えて英文を組み立てると、高得点が望めるでしょう。

構文の学習は下線部和訳にも生きてくるので、重点を置いてやっていきましょう。

あとは単語の細かいニュアンスです。

ここが上手く当てはまると採点者の好感度は上がります。

日頃の単語学習では類義語の使い分けにも着目して行ってください。

また、先にも述べましたが、英作文を書いたら先生に添削指導をしてもらいましょう。

誰かに見てもらうことで誤りはもちろん、新たな表現方法にも出会えます。

### ③ 解答順序・時間配分

自分で決めろ、と言いましたが、ある程度の指針は示しておきます。  
東北大の英語は試験時間が 100 分あります。  
変に詰まったりしなければ、十分完答できる時間だと思います。  
試験が始まったらまず全体の問題の構成を見渡してみましょう。  
問題形式が変わっている可能性もあるからです。  
大問三にもよりますが、とりあえず、英作文を見つけたら後回しです。  
英作文は質さえを問わなければ短時間で解答可能だと思いますので、長文読解から解き始めましょう。  
長文読解はそれぞれ 25 分が目安だと思ってください。  
それ以上かけると他で皺寄せが来るかもしれません。  
形式が変わりがちな大問三のために時間はできるだけのおこしたいです。  
最長で 30 分とします。  
大問三、四はそれぞれ 20 分で蹴りをつけたいところです。  
余った時間を全体の見直し、下線部和訳と英作文の推敲に回したいからです。

できるだけ本番と同じ緊張感を保って、過去問を複数年分解いておくと、本番での時間配分に応用が効いて良いです。  
時間配分というものは本当の本当に大切なので、よくよく考えておいてください。

### ④ 最後に

敵を知ることで戦い方が変わります。  
敵の弱点を意識して鍛えた方が良いに決まっています。  
今回の講義を頭に置いて勉強しましょう。